

## ガーナでそろばんプロジェクト 120 号(2025 年 2 月 28 日)

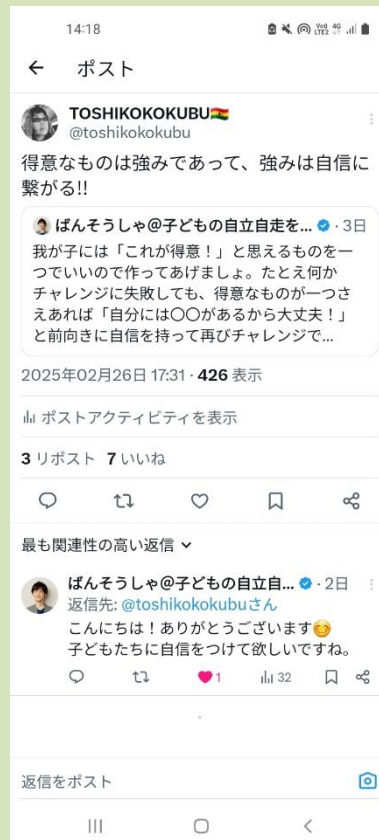
★★ 得意なものは強みであって、強みは自信につながる ★★

早いもので三月に入ります。三月と言えば日本では卒業式シーズンです。ここガーナで現在、そろばん指導している日本人の生徒さんは一人ですが、数年前まで国語算数そろばんと三教科教えに行っていた生徒Sさんが土曜日に開校しているアクラ日本語補習授業校の小学部を卒業するにあたり、お母様より祝辞を依頼されました。教えに行っていた当時思ったことは、とても丁寧な字を書き、本を読むのが大好きで机の上には、読みかけの本がいつも置いてありました、何よりもそろばんを好きになってくれ、将来そろばんの先生になりたいと私には言わず、お母様に話してくれたのが嬉しかったです。ところがSさんのお宅へは都合が合わずして行けなくなっていました、そろばんの指導は中途半端に終わってしまいました。日本人会のよさこい祭りでは元気な姿のSさんを見かけるも、指導を行くのを途中で辞めてしまった事に罪悪感を感じていました。そうした中、去年お母様よりSさんが一時帰国中に通っていた学校でSさんが書いた俳句が受賞した事を知らされました。この知らせをたいへんうれしく思いました。そう、Sさんはたくさん本を読み様々な出来事を、自分の言葉で綴る素晴らしい力を持っていたのです。

Sさんにとって文を綴る力は強みなのです。Sさん自身が気づかない素晴らしい強みなのです。自信を持っていけるものなのです。そうした事を祝辞に書きました。そろばんの先生になりたいという夢を叶えて欲しいなという想いは正直ほんの少しありますが、Sさんにとっての強みは感受性を活かした素晴らしい文を綴る事だと思えるのです。そうした「得意なもの」は強みであって、強みは自信につながる」と自分自身「文にして改めて感じていた時に同じ思いをXに書いているそろばん教室の先生がいらっしやいました。『子供の意欲を引き出す、子供の自立自走を常に考える伴走者』として

知られる牧野先生が投稿していた内容に深く共感できたのです。子どもに得意と思えるものを作らせ自信を持たせることの大事さは常に思っている事です。今現在大学に通っているかつてそろばん教室に来ていたデイビット、クレナム、そしてフランスにいるプリンシラもそろばんを通して計算が得意になり自信が持ち勉強に励み今があるのです。私たち大人は子どもに得意なことを作らせ自信を持たせる大事な仕事を担っているのだなと振り返ることが出来た祝辞と牧野先生の投稿でした。さて、今月の村での授業は2か月ぶりとなり、繰り上がり繰り下がりのおさらいとなりました。五から貰って繰り上がる、引けない時は左から一貰いお釣りを置く。繰り返し繰り返しの授業です。この積み重ねが分かる喜びとなり、得意なものになり自信につながることをコツコツとやっていくのみです。

報告 TOSHIKOKO



子どもの学びにサポートに心より感謝いたします  
協賛 トモエそろばん様